

沖縄復帰50周年記念 ～農業関係パネル展～の開催について

1. 概要

令和4年5月15日に沖縄が本土に復帰して50年目を迎えたことから、沖縄本土復帰後の農業振興に着目し、沖縄県における農業のあゆみ等についてパネルでご紹介します。

2. 開催日時・場所

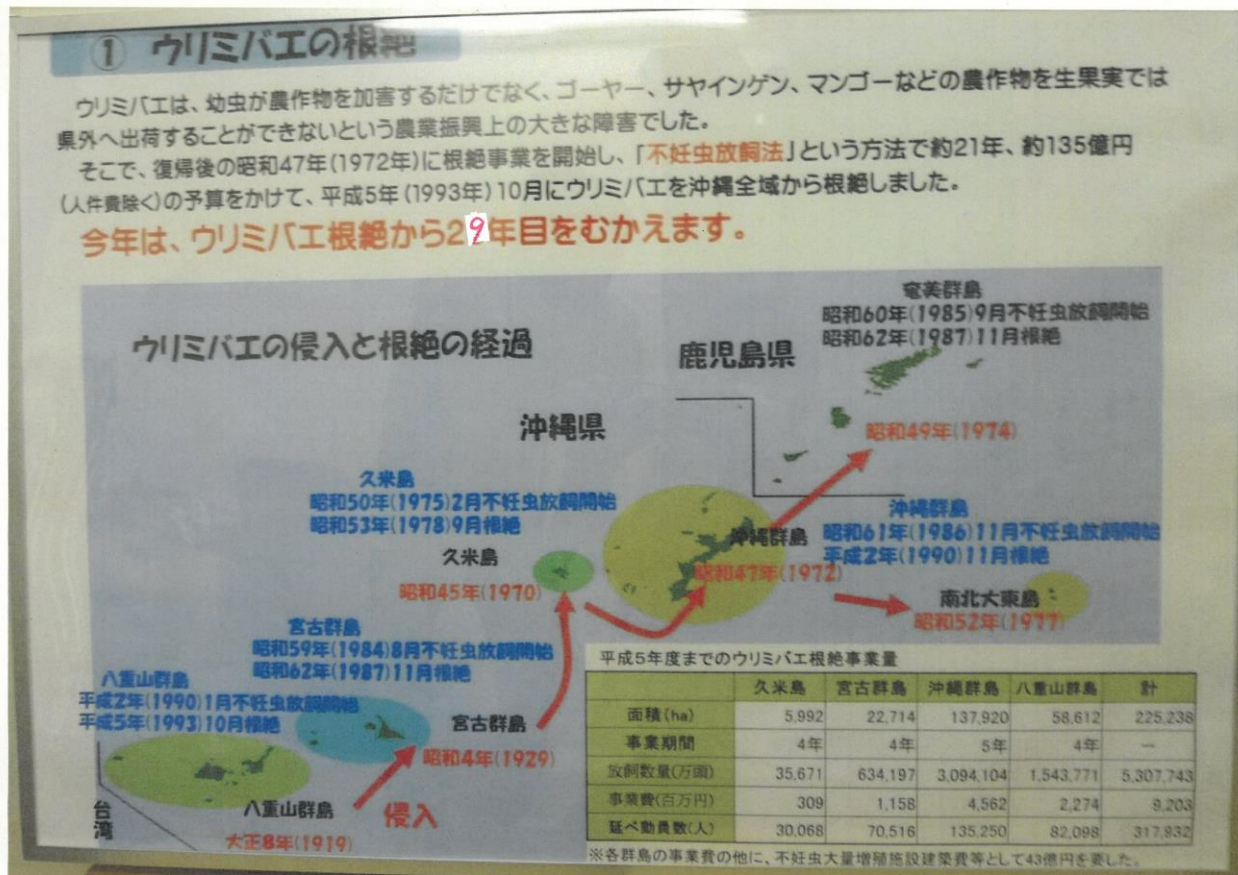
日 時：令和4年7月11日（月）～29日（金）午前9時～午後5時

場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館1階行政情報プラザ
（沖縄県那覇市おもろまち2-1-1）

3. パネル展の内容

（1）7月11日（月）～15日（金）は、沖縄の病虫害防除と防疫の取組についてご紹介します。

具体的には、沖縄県で実施している病虫害防除や移動規制等の国内検疫についての展示、沖縄の農業振興の障害となっていたウリミバエの根絶へのあゆみに関する展示、防除対象病虫害や移動規制対象植物の紹介等を行います。



(2) 7月19日(火)～22日(金)は、沖縄復帰後の土地改良事業のあゆみをご紹介します。

具体的には、沖縄県の土地改良の歴史、土地改良事業が地域にもたらした発展(過去から現在)、沖縄の歴史あるかんがい施設の紹介を行います。



地下ダム(宮古島)

(3) 7月25日(月)～29日(金)は、沖縄の特に離島の地域経済を支えてきたさとうきび栽培の歴史について展示を行うとともに、さとうきび生産の統計データや、製糖業の歴史についてもご紹介します。

① 沖縄農業のむかし

◆水の確保に苦闘した島々

- ▶ 沖縄県は生活用水、農業用水などの確保に苦闘してきました。
- ▶ 特に、川も湖もない島では、水は大変貴重であり、安定的な水確保が大きな課題でした。



昔の水くみ等の状況

- ▶ 洞窟湧水や海岸断崖湧水等からの水くみが女性や子供の日課でした。
- ▶ かめやタンクに蓄えた雨水も利用していました。

平ばつ被害を伝える新聞記事



度重なる干ばつ被害

- ▶ 沖縄県は農業が主要な産業のひとつですが、そのほとんどが天水頼みでした。
- ▶ 頻発する干ばつは、農業に大きな被害を与えていました。



干ばつ被害の状況

- ▶ 明治37年に約8ヶ月間雨無しを記録しました。
- ▶ 昭和46年に宮古諸島で185日、八重山諸島で191日の大干ばつとなり、雨水に頼る宮古、石垣の農業は壊滅的な打撃を受けました。
- ▶ 昭和56年、沖縄県は、延べ326日にわたる給水制限を余儀なくされました。



問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局農林水産部農政課

担当者：齊藤、浅海、長堂

TEL：098-866-1627(直通) FAX：098-860-1395